

(再開 午前 11 時 45 分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

5 番、丸山邦久 議員。

(「はい、議長。5 番。」の声あり)

(5 番 丸山邦久 議員 登壇)

1. 観光施設の民間譲渡に向けて

5 番 丸山邦久 議員

それでは、通告に基づき質問をさせていただきます。

まず1点目、「村の観光施設の民間譲渡について」であります。

村の観光施設のうち、スキー場とパノラマランドの民間譲渡の議案がこの一般質問の後に上程されるという話でありましたが、しかし更に先延ばしになり、この9月議会会期中に上程されるかどうか分からなくなったと報告を受けました。

議会として交渉の大まかな経緯は聞いてはいますが、譲渡条件・契約内容などの重要なことは承っていないわけであります。

今回の観光施設の民間譲渡は60町歩と、譲渡面積が広大であり、木島平村の67年の歴史上類を見ない大きな問題であるなど私は考えております。

そこで伺います。

1点目、9月議会の議案の中で最も重要な観光施設（村の財産）の譲渡の議案の上程が、なぜどんどん先延ばしになるのか。明確な理由を伺いたい。

2点目、今まで木島平観光橐に対する貸付や補助金などが、村は議会に時間を与えず、採決を急がせてきたような感じを受けております。

具体的に例を言いますと、今年の3月議会で2月24日の本会議の初日に、村からの観光橐に対して5,000万の補助金を、初日のうちに承認してくれという話がありました。そこはちょっと反対しまして、1週間後の3月3日に本会議を開いていただいて、それでそこで承認をされたわけですが、その急がせた理由というのが、3月末の支払いに間に合わなくなるというのが大きな理由でした。

でも、3月3日で承認を受けたその補助金が3月10日にはもう既に観光橐に支払われている。

仮に、3月18日の本会議にそのまま採決しても、十分3月末の支払いに間に合ったのではないかなと私は思います。なんとなく不用意に、急がされた、そういう感じを受けております。

今回も何かそれに似たような感じがしております。その辺はどうか。そこを伺いたいと思います。

以上、2点であります。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

はい。それでは、丸山議員の観光施設の民営化についてのご質問であります。民営化の目的と状況については、さきの各議員のご質問にお答えしてきたとおりであります。

そしてまた、ご質問の議案の上程の時期についてであります。

3月議会において、公共施設総合管理計画において観光施設の民営化方針を具体的に示してから、村としても大切な施設・事業として譲渡の考え方を整理しながら進めてきたところであります。この点については、議員各位にご理解いただいているというふうに思いますし、むしろ後押しされてるとい

うふうにも思っております。

譲渡先の選定にあたっては、施設の維持管理の課題、運営手法の課題も多く、いかにこのスキー場を継続的に運営していただけるのかを基準として選定に至った経緯があります。その後、土地、建物等資産の評価を行いながら合意に向けた検討を続けてきたわけであります。

議員のおっしゃるとおり、資産としてはスキー場という大きな規模の資産であり、特に土地については不明確なところも多く、また、老朽化した施設・設備においては資料も残っていないなど、評価算定に時間がかかってしまったという実状もあり、8月24日に評価鑑定が終了して譲渡価格の決定ができたところであります。そんなことで、この時期になったわけではありますが、単なるものの売却ではなく、事業全体を引き継ぐといったものであり、細かなところまで双方で確認をなければならない事項も多く、また、相手方にとっても大きな事業継承となるため、村や木島平観光(株)の状況等、詳しい資料を求められております。

通常このような案件では1年から2年かかるといわれますが、半年という期間で担当職員も最大限頑張っております。

現時点では、口頭で基本合意しましょうという段階に来ているということはさきに申し上げましたが、最終的に文書での基本合意に至っておりません。

村の観光行政にとって大きな転換点となり、そのため議会の会期中も交渉は進めております。正式に基本合意ができない不確定な状況で、資産譲渡や条例改正を議案として上程できないことはご理解いただきたいというふうに思います。

審議の期間を短くするという意図は全くありません。村としても最大限、早期に契約に結び付けて進めていきたいというふうに考えておりますが、やはり相手方の計画、それからまた、事情等も考慮しながら、条件等揃えながら進めているということをご理解いただきたいというふうに思います。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

それでは再質問いたします。

昨日の山浦議員に対する答弁からずっとお聞きしてまして、現状認識として、第三セクター方式の限界がある、それもわかります。更なる公費投入に対する反対意見が多い、これもそのとおりであります。

これが現状の問題であって、これが民営化するとですね、ざっと書くと、1番、地域活性化に繋がる、これもそのとおりでしょう。企業誘致に繋がり、新規雇用に繋がる、これも確かだと思います。

3番目、子供たちにとって、地元に大きな魅力を感じられる存在になる。地域愛が広がるのはとてもいいことだと思いますね。

なんとなく問題点があるけれども、民営化すると薔薇色の木島平ができるみたいな感じを受けるわけですが、物事にはいい面があればその裏には反対に悪い面も必ずあるように、私は感じてるんですね。これ民営化によって本当に、問題点には言及されてませんけども、本当に問題点がないのか。その認識を伺いたい。それが1点目です。

もし、ないということになれば、議員の皆さんも本当に賛成しやすくて願ってもない話だと思うんですが、問題点があるかどうかを伺いたい。

それから2点目。

そもそも村長には、この問題が大問題であるという認識があったのかなと私は思います。

昨年12月には譲渡方針が出てたわけであります。そういう譲渡方針を進めていくにあたって、こういう問題が起こりうるか考えれば、資産評価が必要かどうかぐらいはもっと早くわかったんではな

いか。4月になってから弁護士や司法書士に住民監査請求のおそれがあると指摘されて取りかかったと私は聞いているわけですが、これ12月に決めたんだったら1月ぐらいに取り組んでいれば、こんなに遅くなる話ではない。物事を簡単に考えていたんではないのかなと思います。

私は全然反対ではありませんけども、この進め方について大きな疑問を感じておりますので、答弁をお願いします。

議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

はい。民営化することによって不利益な部分もあるのかということであります。それを最大限なくすように今、契約というか、こういう中身を調整しているところであります。

ただ、第三セクターといっても、やはり村が経営していたスキー場と、それからまた純粋な民間での継承となれば、ある程度経営方針は変わってきますので、これまでと違う対応が必要になる、そういうことは当然考えられるというふうに思います。

それからまた、契約の進捗状況であります。正直申し上げまして、昨年の暮れから3月頃まで計画していた相手方と3月以降の在り方については変わっております。それは、今後のスキー場経営というか、木島平村の観光振興にとってどちらが有利であって、そしてまた村にとっても財政的にも、そしてまたスキー場の魅力アップにも、どちらが良いのかということに基づいて判断をした結果であります。具体的には、ですから、今回の優先交渉者とは、4月以降の話になってるということでもあります。

決して十分な時間があつたとは言えないということは、ご理解いただきたいというふうに思いますし、その中で、先ほど申し上げましたとおり、最大限の努力をしながら協議をしてるということでもありますので、ご理解をいただきたいというふうに思います。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再々質問

5番 丸山邦久 議員

前にも私、議会で申し上げたことがあると思うんですが、仕事のできる人というのは先に問題を潰しておくんですよ。

でも今回に限って言うと、次から次へと問題が出てきて、どんどん日程が遅れてくるわ。

やはり村長ですから、もっと仕事ができる人のように、先に問題を潰すようにしていただきたいなと要望するものであります。

返答をお願いします。

議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

はい、ぜひそのようにしていきたいというふうに思いますし、こちらの方としても想定される課題については、それぞれ事前に対応と協議してきたわけではありますが、やはり相手方にとっても十分な

理解をいただく、そしてまた、相手方としてもやはり大きな事業継承になりますんで、それらの不安を解消する、問題を解消するために、こちらの方で想定しなかった課題等が出てくるということでもあります。それらについて、時間が必要ということはご理解いただきたいというふうに思いますが、村としても最大限努力していきたいというふうに考えてますので、よろしくお願いいたします。

議長（萩原由一）

質問の途中ですが、ここで暫時休憩いたします。

再開は、午後 1 時 00 分をお願いします。

（休憩 午前 11 時 58 分）

（再開 午後 1 時 00 分）

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き会議を開きます。

丸山邦久 議員。

2. 観光振興局について

5 番 丸山邦久 議員

それでは、2 項目目の質問に入ります。

「観光振興局について」 ご質問をいたします。

去る 7 月 25 日に一般社団法人木島平観光振興局の定時総会が開催されました。その総会資料が翌日には私のところに持ってこられてまして、私、上木島に住んでおりますので、観光業に携わってるものが多いわけです。で、その方はなんて言われたかっていうと、早く振興局を立派な組織にしてくれ、ちゃんと仕事のできる組織にしてくれって言って置いてくれました。

その総会資料のですね、決算報告の監査報告書の指摘事項に、「簿外勘定を持つなど、不透明な会計、不適切な経理処理が行われていた」と記載されております。

普通こういうのがあれば総会というのは通らないものなんです、村の皆さん優しいんで総会は通ったらしいですが、このような監査に指摘を受ける団体に補助金が交付されていますが、交付対象としてふさわしいと考えるかどうか、お伺いいたします。

議長（萩原由一）

日基村長。

（村長「日基正博」登壇）

村長（日基正博）

それでは、丸山議員の観光振興局についてのご質問であります、観光振興局は村からの補助金だけでなく、会員からも会費をいただき、観光PRや誘客など観光振興を行っている大事な組織であります。

今回指摘を受けました不適切な会計処理は、観光振興局が行う本来の事業とは直接関係がないものですが、不適切会計の問題については、今後、適正に処理するよう再発防止に向けて指示をしたところであります。

以下、産業課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、村長の答弁に補足をしてお答えをいたします。

観光振興局につきましては、村の観光振興について行っている団体でありまして、近年、従来の観光の概念、考え方も少し変わってきております。特に外国人が多く訪れるようになって以降、その地域にある文化や伝統など、日常に触れることができない、非日常を体験するものの価値が高まってきております。

観光施設の民営化により、この村の観光に対する考え方も変わると思います。

そういった面からも、新たな観光の取組に向けて、更なる広域連携や新たな資源のコンテンツ化など、地域活性化起業人のアドバイスもいただきながら、組織的にも更に充実をさせ、しっかり取り組んでいただきたいと考えております。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

再質問に入りたいわけですが、私は聞いているのはね、ふさわしいかどうか、支給対象としてふさわしいかどうかなんですよ。

それはもう、ふさわしいかふさわしくないかの二つしかないわけで、その辺をどう考えてるか聞いているのに、これから再質問でしようかなと思ったお答えまで頂いちゃうとちょっと調子狂っちゃうんですが、是非ふさわしいかふさわしくないか、二者択一でご返答をお願いします。

議長（萩原由一）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

はい、ふさわしいかふさわしくないかというよりも、先ほど申し上げましたとおり、観光振興局の持つ役割は大きなものであります。それに対して、村は今後も支援を継続していきたいというふうに思っておりますし、それを受けてしっかりと村の観光の発展のために、努力して協力してもらえるものというふうに思います。そういう意味では、今後も支援していくべき団体だというふうに考えております。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再々質問

5番 丸山邦久 議員

聞いたことに全然答えてくれないんで、次にいきようないんですけど、組織を活性化させたり、正常に戻していくためにはやっぱり現状認識っていうのが必要ですよ。それがないで、いい加減なこと言って、ね、この場すり抜けてやっていったってこの組織絶対良くならないですよ。

是非ふさわしいかふさわしくないか答えてください。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日墓正博）

はい、その件につきましては、村としてもその会計について不適切な処理があったってことについてはお詫びを申し上げたところであります。

これまで申し上げたとおり、大きな役割を果たす組織団体として、これまでの活動、それからまたこれから期待する分野を含めて、補助金を交付するに値する団体組織だというふうに考えております。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

5番 丸山邦久 議員

いくら話してもらち明かないんで、再質問にいきますけども、やはりこの組織問題ありだと思ったら、現状認識は必要ですよ。それを今までやってこなくて駄目だった例っていっぱいあるじゃないですか。適当に答えた、適当にその場さえすり抜けばいいみたいな形で来ちゃったっていう・・・

議長（萩原由一）

ここで暫時休憩とします。

(質問が終わっていることを注意)

(休憩 午後1時06分)

(再開 午後1時07分)

議長（萩原由一）

休憩前に引き続き、会議を開きます。

丸山邦久 議員。

3. 観光における統一コンセプトについて

5番 丸山邦久 議員

不本意ながら3番目の質問に入らせていただきます。

「観光における統一コンセプトについて」であります。

6月議会の一般質問で質問した地域活性化起業人の業務の一つとされた観光における統一コンセプトが定義されました。

「人づくり×里山」が発表された統一コンセプトであります。

私も仕事上、会社のコンセプト作りってやってきましたけども、コンセプトっていうのはその方向性を示すものであって、分かりやすいってのがやっぱり大事な要件じゃないかと思うんですね。

そもそもコンセプトというのは「企画、広告などで全体を貫く統一的な視点や考え方」と定義されています。その上にさらに統一がついてるんですから、観光の方向を明確に示すものであり、全ての人に理解しやすいものでなければならぬと私は考えています。

私としては、この「人づくり×里山」、ちょっと意味がよくわからないなという感じがしております。是非、私を含めて村民にわかるようにご説明をお願いいたします。

議長（萩原由一）

日墓村長。

(村長「日墓正博」登壇)

村長（日躰正博）

はい。観光における統一コンセプトというご質問であります。ご質問の件につきましては、産業課長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

それでは、私の方から答弁をさせていただきます。

今回のコンセプトについては、四季を通じて魅力ある木島平村のブランディングを再定義するため、幅広い分野から委員を選んでいただき、検討委員会の中で検討され作成されました。

最終的には、観光や村づくりに関わる事業者、行政の担当においてもこのコンセプトをよりどころにしてもらうことで、効果的、効率的な事業設計ができることを目指して作成されております。

では、「人づくり×里山」がなんで観光に関係あるのかと思われる方も多いと思います。

木島平村観光振興局の最大のテーマとして、木島平村人口ビジョンに基づく地域活動や地域産業がいかに貢献していけるか、ということだと思えます。

人が移り住んでくれること、人が旅行客として訪れて来てくれることは、実はかなり近いつながりがあり、どちらも地域の魅力が伝わっているかどうか、が一つの重要な指標になっていると思います。

昨今の、溢れる情報の中で過剰なほど提供される選択肢から、移住先や旅行先として選ばれるためには、他の地域に勝る魅力を整理して伝えていくことが第一です。

そして、木島平村に魅力を感じ、ちょくちょく足を運んでくれる人、気にかけてくれる人、いわゆる「木島平のファン」をつくっていくことを、木島平村観光振興局にも中心的に担っていただきたいと思いますと考えております。

家族で移住しようとする、若しくは移住して家族を持とうとした場合にまず考えるのは、雇用、教育、医療になると思います。

村では、コミュニティスクールや学校運営協議会などの取組も早くから先進的に行われ、地域が子供たちの教育を支えてきた背景があります。また、里山の代表といった景観と、教育を人づくりと言い換えて掛け算しますと、ほかにはない魅力的なコンセプトということで策定をいただきました経緯があります。

持続可能な地域づくりのため、交流、定住、関係人口をつくること、地域内経済効果を目標に、観光を利用して木島平村のファンを増やすことで、将来的な村づくりにつなげていくため、あらゆる事業設計において、このコンセプト、考え方をよりどころとすることで、効果的、効率的な事業設計を目指して行くものとして策定をしていただきましたので、ご理解をお願いいたします。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5番 丸山邦久 議員

ご理解をお願いしますと言われましたけども、まだ私も理解は追いついていないようであります。

統一コンセプトでありますので、観光振興局の職員が全て理解しているようにならなきゃいけないと思いますし、また観光に携わる人たちもちゃんと理解しなきゃいけないと思うんですね。

私の感じでは、まだ少なくとも、観光に携わってる人はこれを理解はしていない。

今後、やっぱりちゃんと理解していただくように頑張っていたきたいなと思っているわけですが、今後どういう手順でやっていくかをお答えいただけますか。

議長（萩原由一）

湯本産業課長。

（産業課長「湯本寿男」登壇）

産業課長（湯本寿男）

丸山議員の再質問にお答えをいたします。

基本的には、現段階では観光振興局のよりどころとして、そういった事業を通じて、こういった考えを定着させていくということが一番だと思っております。これから具体的に、今進めていただいておりますコンテンツの造成ですとか商品化、またツアーですとか、商品化していく中で、そういった考え方に基づいて取組を進めていただければと思っております。

また、村としても、基本的には人口ビジョンに基づいた各種施策を実施しておりますので、観光振興局とやっぱり連動をしまして、同じ考え方で取組を進めていけるのであれば、取り組んでいきたいと思っておりますので、PRについてもこれから理解をしていただけるように努めていただくようお願いをしますので、よろしくお願いいたします。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

4. 食のアドバイザー委託の農産物ブランド化推進費について

5 番 丸山邦久 議員

それでは、4 番目の質問に入ります。

「食のアドバイザー委託の農産物ブランド化推進について」伺います。

村内飲食業者や加工品製造業者に対し、メニュー開発や魅力向上対策などへのアドバイス業務を専門家に委託し、食を通じた地域振興を図るため、240万円の予算が計上されています。

取組には私は大賛成です。

現状どのような進捗状況というか状況になっているか、ご説明をお願いします。

議長（萩原由一）

日碁村長。

（村長「日碁正博」登壇）

村長（日碁正博）

このご質問については担当室長に答弁をさせます。

議長（萩原由一）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

産業企画室長（湯本寿男）

それでは、私の方から答弁をさせていただきます。

昨年9月に本村と包括連携協定を締結しましたglobal meets（グローバルミーツ）合同会社代表と、4月に業務委託契約を締結しまして、現在各種業務を進めているところです。

現在の状況としては、同社の知見を活かしながら、加工の村内の情報収集や関係者と打合せを行っているところです。今後、食による地域活性化に向けて具体的に取り組んでいく予定であります。

現状の取組としては、検討状況のものも含めてですが、米粉を使ったチーズを使ったパン製造販売の準備、フードロス対策として直売所と連携で売れ残った商品を回収するシステムなどの提案をいただいております。今後、具体的に進めていく予定であります。

また、上記を原料に加工品製造を行って販売につなげていく予定でもあります。

地元産野菜や食材を使った料理を村民の方にアピールしていただくこともお願いをしております。

また、農林高校と連携し、渋柿を使った土産品の検討についても、高校と打合せを行っていただいております。

まだ、具体的に目に見えた活動にはなっておりませんが、これから具体的に食による地域活性化に向けて進めていただく予定であります。

議長（萩原由一）

丸山邦久 議員。

再質問

5 番 丸山邦久 議員

この手のことに対しては少し進捗が遅いのではないかなという気が、実はしております。もう既に半年経っているわけでありまして。まだ検討とか何とか情報収集とか、って言っているうちにもうじき1年経っちゃうわけでありまして。

やはりもう少し、担当の方も大変でしょうけども、目に見えるような形で成果を上げていただきたいなと思っております。期待しておりますので、頑張ると言っていただければ結構です。

議長（萩原由一）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

産業企画室長（湯本寿男）

再質問にお答えをいたします。

動きが遅いというご指摘でございます。これから形として目に見える成果を出していただけるように、村としても精力的に一緒に活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

議長（萩原由一）

以上で、丸山邦久 議員の質問を終わりにします。

（終了 午後 1時19分）

議長（萩原由一）

以上で、本日の日程は終了しました。

本日はこれで散会します。

ご苦勞様でした。

（散会 午後 1時19分）